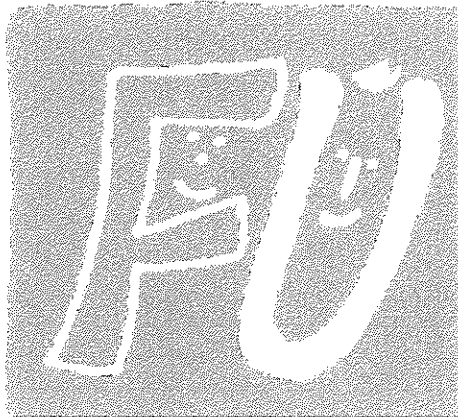


社会福祉法人ふたかみ福祉会
—かがやく命を大切に作る社会をつくります—

2021(令和3) 年度事業報告(案)

2022年5月24日
理事会



法 人	2
はびきの園	3
ハビパール	5
ほまれっこ	7
はばたき	9
ほまれの里	11
支援センターはる	13
第3者委員会	15



2021(r3)年度事業報告

	理事会	評議員会	管理者 会議	主任副主 任会議	法人職員 会議
4月			6.13.20	27	
5月	21		11.18	25	29
6月	25	18	1.8.15.29	22	26
7月	26		6.13.20.27	27	
8月	17		3.10.17.31	24	
9月			14.22	28	
10月			5.12.19	26	16
11月	29		2.9.16	30	
12月			7.14.27	30	
1月			11.18	25	8
2月			1.15.8	22	
3月	22		1.8.15.29	22	5

上記会議 理事長・常務理事出席

主任会議
実践責任者会議
職員会議

法人事務局会議
班会議
求人担当者会議

2 危機管理委員会 20第4四半:第1四半期 第2四半期 第3四半期 第4四半期

第3者委員会	4/23	7/16	10/8	1/21	4/15

3 研修

内部研修 研修委員会を中心に

法人間連携研修(府社協アウトリーチ助成ピョピヨ福祉会(松原市)こごせ福祉会(富田林市)と

人材育成	7/29	8/24	9/18	10/30	12/11
人権研修	5/29	6/26	1/8		

4 人事

正規職員		正規外職員		無期転換	
採用	退職	採用	退職	転換	退職
1	2	2	1	0	0
※定年退職1					
育休	1	1			

5 事務局

1) 主な業務

法人運営 理事会、評議員会、管理者会議(月1回)求人会議に出席。
議事録の記録と作成、書類の整備 WEB給与明細
人事業務 各種必要書類(特に雇用契約書)把握、管理
給料業務 勤務シフト様式記入方法改定。
経理業務 IT導入補助金を活用したタイムカードの導入を検討
請求業務 報酬改定対応。各事業所経営分析を行い、増減状況報告
その他 ソフトの入れ替えを行った。
事務局員向け内部研修・危機管理、外部連携、その他

※吉川(吉川徹)社労士事務所委託

2021 (r3) 年度事業報告案

2022年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
はびきの園	生活介護Ⅰ	30	33	H31/4/1-H37/3/31
	生活介護Ⅱ	7	9	H31/4/1-H37/3/31
	就労継続支援B型	10	10	H31/4/1-H37/3/31

職員配置数

事業内容	配置基準	比 管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
生活介護Ⅰ	13	1	1		12		1		5	13
生活介護Ⅱ	3.6	1	1		2.6		1			3.6
就労継続支援B型	2.1	1	1		2.1					2.1

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男	0	10	11	9	1	1	1	33
女	1	4	6	7	2	0	1	20

利用者(支援区分)

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計
生活介護Ⅰ				1	8	10	14	33
生活介護Ⅱ							9	9
就労継続支援B	5		1	3	1	1		11

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員 (%)

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
生活介護Ⅰ	667	631	676	664	671	646	676	665	682	631	582	673	98.2
生活介護Ⅱ	123	99	124	126	113	120	113	116	134	127	88	114	74.7
就労継続支援B型	194	183	196	192	195	187	200	184	194	181	175	188	85.0
就労移行支援	59	60	72	30	22	14	13	7	4	0	0	0	17.5
開所日数	22	22	22	23	23	22	23	22	23	22	20	23	267
延べ利用率(%)	89.5	83.4	91.6	83	82.1	82.9	82.2	83.4	83.2	80.5	79.7	80	83.5%

利用者工賃(就労継続支援B型)(円)

最高額/月	32,460	最低額/月	2,900	平均工賃/月	15,600	目標	15,166
-------	--------	-------	-------	--------	--------	----	--------

【事業所の特徴】

利用者が1名亡くなる事がありました。障害のある方の寿命が延びてきていると言われてはいますが39歳という若さで亡くなっています。改めて命の大切さを実感する出来事でした。また、三年目を迎えたコロナ禍であって、生活をどう豊かにしていく事ができるかを目指してきました。その中で、感染状況を見ながら外に出ていく事を含め、取り組みも実施してきました。

「労働」の視点では、働く事の意味をそれぞれの障害に応じた内容で、労働が目標ではなく、それぞれの「より良く生活したい」という願いを叶えるための手段である事を確認しています。

しかしながらコロナ禍にあって、そういった今まで当たり前に目指してきた事と安心を天秤にかけ、判断し続ける事が今もなお続いています。この状態はまだしばらく続く事が見込まれ、状況を注視しながら事業を進めていきます。

就労移行支援事業については、利用者が居なくなった事を機に休止し、3月末で閉鎖をします。支援の内容はB型の事業を利用して続けていく予定です。

【事業所運営に関わって】

- ①職員会議の時間を利用し、看護師によるてんかんなどの基本的な医療の学びを行いました。外部研修も行われるように、非常勤、資格取得研修に参加出来ました。
- ②法人でケースカンファレンスを行い、中堅職員をそこに派遣して学ぶ場を作りました。ケース論議をする機会が少なくなっているため、今後その職員を中心に進めていきます。
- ③利用者は1名減になりましたが、常勤看護師配置・重度支援の2種の加算を新規に取得したので経営の安定化に繋がりました。利用率も全体で80%に近づいています。またそれを支える職員の採用も進め現場職員の補充も行えました。今期は全体的に事業所の運営が安定化できています。しかし利用者・支援者の高齢化、加算での増収等今後のリスクは残っています。今後はこういった事に対応していきたいです。
- ④浸水想定の変更がされ、それを含めBCP計画の作成と、職員間での共有を行いました。
- ⑤地域での共同、作業所連絡会では昨年からのコロナ対応で連携を強め、ワクチン接種ではきょうされんで集めた情報を基に連絡会として市に関わる事で医師の巡回接種につながりました。
- ⑥障害者運動を利用者の生活が少しでも良くなるように、自分たちの身近な事柄と結び付け進めてきました。きょうされんの署名は職員が中心になって利用者に説明会を行い取り組みました。

【利用者支援に関して】

- ①サービス利用計画と個別支援計画など、コロナの影響で連携や契約がスムーズにいかない事がありました。内部で使用している書式の統一を進め、グループや個人による違いなどが出ないようにしました。
- ②利用者の全体会や班集団を越えての集まりはリモートで行っています。毎年行ってきた年度末パーティーはコロナ6波の影響禍でしたが、パソコン機器に影響されないように録画したものを見せ合う形で実施し、初めて寿司を給食で食べる取り組みが出来ました。
- ③環境の整備では、玄関前のアスファルトの舗装をしました。その他必要なものは来期優先順位をつけて行います。
- ④アトリエの利用者の絵画がきょうされんを通じてカレンダーになったり、アルミの価格高騰が続き全体としては例年並みです。しかし、利用者の工賃保障に十分な収入は得る事が出来ていません。工賃保障については、1200万の収入目標は達成できていませんが、支出を減らし収支改善が出来ており更なる取り組みが必要です。
- ⑤自治会や班長会は会議は実施できています。
- ⑥休日開所は今期14回実施しました。内容が決まるのは直前でしたが、コロナの感染状況を考えながら様々な取り組みが企画できました。通所者は30名前後で固定されていますが、創作や調理など内容を見て参加する方もいます。
- ⑦給食は月1回の会議でやり取りしています。季節のメニューや今まで給食では出せなかった刺身が提供できる等新しい事もありました。おいしく楽しく食べる事ができる内容を引き続き検討していきます。
- ⑧利用者の健康管理や日々の健康に関わる情報の残し方を再検討しています。記録様式を改め、運用し始めました。誰でもいつでも出来る書式を作っていきます。
- ⑨看護師を1名増員(計3名)し、通院等を事業所でもおこなえる体制を準備しました。今後家庭と連携しながら運用していきたいと考えていましたが、3月に退職され2名の状態に戻りました。
- ⑩3回目のワクチン接種をぶどうの家診療所の医師の訪問接種を行いました。今後は副反応の対応を事前に準備しておくことよと考えています。

2021 (令和3) 年度事業報告案

2022年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
ハピバール	生活介護	10	11	h29/4/1～2023/3/31
	就労継続支援B型	10	8	h30/4/1～2024/3/31

職員配置数

事業内容	配置基準	処'管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
生活介護	2.5:1	1			6		1	3	2	7
就労継続支援B型	7.5:1	1			3			3		4

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男		2	2	3		2		9
女		6	2	2				10

利用者(支援区分)

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	平均
生活介護				1	2	7	1	11	4.5
就労継続支援B型	1			3	4			8	3.5

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員 (%)

事業所名	ハピバール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
生活介護		238	230	236	247	238	231	243	230	242	214	189	221	103.3%
就労継続支援B型		109	104	112	110	104	102	110	106	108	91	99	111	47.4%
開所日数		22	22	22	23	23	22	23	22	23	22	20	23	267
利用率		79%	76%	79%	78%	74%	76%	77%	76%	76%	69%	72%	72%	75%

利用者工賃(就労継続支援B型)(円)

最高額/月	12250		最低額/月	0	平均工賃/月	10394	-
-------	-------	--	-------	---	--------	-------	---

【事業所の特徴】

就労継続B型2名の利用者を新しく迎え始めました。B型の利用率も50%に近づき、全体では7割を超える利用率になったことで赤字幅も少しずつ改善しています。

新型コロナウイルス関連では2名の陽性者、濃厚接触での通所制限が2名などありました。普段の感染対策を徹底していく中でなんとかクラスターは防ぐことができていますが、第4波から始まった今年度も第5波6波と続き、なかなか落ち着いたコロナウイルスに翻弄される日々が続いています。

新規利用者獲得に向けての動きとしては、支援学校から4名と既卒者1名の実習を受け入れ、既卒者1名は利用へとつながりました。それ以外にも利用に向けて見学を希望される方にはその都度対応してきました。

来年度は1名の希望が出ていますが、まだ定員を満たしておらず、引き続き利用者確保へ向けた活動を行います。

【事業所運営に関わって】

・月に1回職員会議、カフェ、ワークスの各部門会議も月に2回ずつ行い、情報共有や検討をおこなっています。

【地域とのつながり】

・コロナの影響もあり、地域行事が中止になっています。しかし、幼稚園とは感染拡大のおさまった時期を狙い対面交流、小学校とはオンラインを活用した交流を実施しました。

・高鷲学園の「はじめましてcafe」に協力を行っています。

・まちまるしえSHOPに委託販売という形で出店しました。

・家族や近隣の事業所、学校などから紹介してもらい商品の受注や食事の配達などつながりを実感する年になりました。

【利用者支援に関して】

【労働】

<カフェ>

- ・コロナウイルスの影響により来客者は増減を繰り返しており、まだまだコロナ禍前の状態には戻っていません。しかし、ピラの配布を行ったこと近隣の幼稚園などからデリバリーの予約があるなどテイクアウトの利用は格段に増えています。
- ・ワクチン2回接種後に羽曳野市民向けに発行しているグッジョブチケットの利用ができるように手続きをしました。引換所が近くにあったことも起因してか利用者は多かったです。
- ・キャッシュレス決済の利用が増加しています。
- ・SNSの発信を仕事のひとつとして定期的に行っています。
- ・夏休みには感染対策を行いながらワークショップを実施しました。(9名参加)

<ワークス>

- ・マリモさんには、ハピバール開所時から毎月来所していただき、様々なアドバイスなどをいただいていたのですが、開所から4年が経過し少しずつ職員も育ってきたこともあり、契約を変更して四半期に1回の来所になりました。
- ・イチゴのへた取り、ぶどうや無花果の皮むき作業では、曜日によって午前、午後と分かれて作業を行っています。いちじくペーストの在庫量が多量になったため商工会に調整してペーストの卸先を見つけてもらうことができました。
- また、いちじく作業は年間を通じて途切れることなくコンスタントに仕事をいただきました。
- ・委託で商品販売をしていただける場所が3か所に増え、在庫の確認やお客様からの要望など販売先とコミュニケーションをとりながら行っています。
- ・絵画リース事業を開始し、2件リースを実施しています。
- ・産経はばたけアート公募展、日本財団主催の公募展、きょうされんグッズコンクールに申し込みをおこないました。はばたけアート公募展では1名が佳作に選出されました。
- ・ハピバールの絵を使つての商品制作が企業と進んでいます。現在は試作を制作中です。
- ・新しいデザインを使つての商品展開が始まっています。
- ・名刺受注が7件ありました。
- ・羽曳野市内4つの幼稚園からの卒業制作の依頼があり、後期は自主製品の生産が少なくなりました。

【生活】

- ・コロナ禍で就労支援収入が大きく低下しているため今年もボーナスは0.5か月分の支給にとどまりました。取り組みでは買い物希望する声が多かったこともあり、ネット注文をおこないました。現物を見ずにパソコンの画面上で商品を選ぶことはなかなか難しかったですが、夏、冬と続けて行う中で仕組みを理解してくれているようでした。
- ・コロナウイルスについての学習会も実施しました。コロナウイルス対策として引き続き事業所内や送迎車の消毒、手洗いやマスク着用の声掛け、食事時間の混雑回避、感染拡大期の循環バス利用者の送迎利用などの対策を行いました。カフェでは助成金を利用して新たにパーティション、CO2検知器を購入を行いました。
- ・週1回看護師、月1回医師による健康チェックをおこなっています。看護師の出勤日数が増えたことで、体調の変化に応じて様子を診てもらえることができています。健康チェック表も、家族に滞りなく配布しています。グラフの作成・入力でも体調の変化がわかりやすくなっています。
- ・婦人科の不調がでている利用者が増えてきています。
- ・コロナ対策として自力通所から送迎に切り替えているなかまもおり、筋力の低下が懸念されることから、体を動かす取り組みを増やし散歩や体操を実施しました。
- ・コロナワクチン接種を事業所で行いました。
- ・成人式の取り組みをおこないました。

【集団】

- ・同僚として、どう相手とかかわっていくかなど人との付き合い方や距離感、また全体として20代の利用者が増えたことで異性に対してなど成人としての関わりを学ぶ時間も必要です。
- ・利用者も増えたこともあり、班編成を組みなおしました。班での役割を分担して各班週代わりで担当してもらっています。当初は混乱もありましたが、徐々に定着しています。今後に向けて自治会を検討していきます。

2021 (令和3年) 年度事業報告案

2022年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	契約者数	事業有効期間
ほまれっこ	放課後等デイサービス	10	12	2018.5.1～2024(r6).4.30

職員配置数

事業内容	配置基準	児発管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
放課後等デイサービス		1		3		1			1	6

契約者数(年齢)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	計
男						1	1	1	1	2	3		9
女									1	2			3

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員 (%)

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用人数	145	132	151	141	125	121	125	129	140	122	129	140	133
開所日数(提供日)	25	23	25	25	21	24	25	24	24	21	22	24	24
利用率	58%	57%	60%	56%	60%	50%	50%	54%	58%	58%	59%	58%	57%

事業所の特徴

後期が始まった頃の新型コロナウイルスの影響は他事業所での陽性者などの連絡はありましたが、直接の影響はなく情報の共有のみで済みました。

前期のように学校全体が突然臨時休校になることはなく混乱は少なかったです。しかし2022年に入ると支援学校で濃厚接触者になったとか、学級閉鎖になったとかで児童が数日間の休みを余儀なくすることがありましたが、利用することができず家庭での負担が大きくなりました。

休んでいる児童にはそのつど家庭に連絡を取ることで在宅支援を行い健康状態を確認しました。

【事業所運営に関わって】

他事業所の閉所に伴い、11月、12月に新入所者がありました。どちらも週1回の利用なので児童の様子を理解することや関係を作るまでに時間を費やすことがありました。

他事業所に新規児童の募集ビラをしていただいたことやホームページなどを見て利用希望の問い合わせが3件ありました。そのうち2件は小学部低学年のため、中高学部が多いほまれっこでは同学年の子どもとのかかわりが無いとのことで利用につながりませんでした。学校の同年齢の集団での学習ではえられない、異年齢の集団の中での成長発達の大切さを伝えることが弱かったため、今後はアピールしていきたいと思えます。

12月に大阪府の実地指導があり、児童指導員等加配加算、強度行動障害児支援加算について過誤請求があり自主点検を行ったうえで、過誤分を返還しました。

【利用者支援に関わって】

○活動場所(10～3月)

石川河川敷・畑薬師山公園・浜寺公園・久宝寺緑地・ロボット公園・寺が池公園・ふるさと公園・近つ飛鳥公園・大泉緑地・しらとりの郷・石川河川公園・グレープヒル・玉手山公園・農林センター・とんぼ池公園・原池公園・石川公園・狭山ふれあいの里・深北緑地など

・毎月月初めに行う壁面制作では、その月にちなんだものを作り1ヶ月貼りだすことで児童と「かわいくできたね。」「秋やね～」など会話でのかかわりの機会となっています。

・後期は季節ごとの行事が多く、その行事が近づいてくると職員が期待を持って働きかけ当日を迎えます。クリスマスではサンタクロース、節分では鬼などの登場、もちつきは実際にもちをつくことで行委を体感できる貴重な経験になっています。

・調理活動(昼食作り・おやつ)はコロナに気を配りながら作業工程で児童がかかわるところは、そのつど手洗い、うがいをし、マスクが苦手な児童も一瞬でもつけてもらって取り組みました。

・マスク生活にも慣れ、今までつけてもすぐ外してしまっていたのが、一日つけていられる児童もいました。

・思春期の子どもが多く、心身の安定が難しい児童には、家庭との連携を密にして、学校の先生と丁寧に取り組みを行い支援をしました。家庭や学校でしんどい様子があっても、ほまれっこでは機嫌よく過ごす姿があり、ほまれっこが安心できる場であると思われます。一方、ほまれっこでしんどいことを全て出して家庭で落ち着いて生活してほしいと思います。

・日々の活動の中で、集団で取り組む内容を取り入れており、みんなで楽しむゲームや他者を意識する遊びなどで、同じチームの児童を喜んだり相手が勝つことで悔しい思いを我慢する気持ちを養ったりしています。

・集団活動が苦手な児童には、本児の気持ちを尊重しながらも「〇〇くんの思いは△△だったよ。」「自分にされたらどう思う？」と投げかけることで相手の気持ちを考えることができるようになり、気持ちのコントロールができるように働きかけています。

・これまで玄関に2台の車両を駐車していましたが、10月より近隣の駐車場を借りています。

・大阪障害児放課後ネットワーク(2ヶ月に1回)はzoomでの開催が1度ありました。ほぼメールでの情報共有でした。

・はびネットは全く会議が持てておらず、コロナに関しての情報をメールでやり取りしたのみでした。

・家族懇談会(2カ月に1回)は4月に学習会と同時に行う予定でしたが、緊急事態宣言が発令されたこともあり延期しました。10月に「子どもの自立と親の自立」のテーマで青木道忠先生による学習会を開催し、外部の事業所関係者、家族、ほまれっこ家族などの参加がありました。ほまれっこの家族の参加が少なかったため家族懇談会はしませんでした。

事故・ひやりはとは大きな事故にはいたりませんが、怪我や行方不明、忘れ物など、不注意でのミスがあったので、今後は職員で確認、連携してなくしていくようにします。

2021年度事業報告案

2022年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
はばたき	共同生活援助	23	23	2018年10月1日～2024年/9/30

職員配置数

事業内容	配置基準	主管	主任	支援員 (加算)	支援員	世話人	看護師	調理員	運転手	計
共同生活援助			1		3					3

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男			1	14	2			17
女			1	4			1	6

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	平均 区分	平均 年齢	定員	建物
はばたき			2			2		4			4	府営住宅
第2はばたき					1	2	4	7			7	法人所有
第3はばたき					1	3	2	6			6	法人所有
あさがお						5	1	6			6	法人所有
計			2		2	12	7	23			23	

【事業所運営に関わって】

コロナ禍での生活が続き、集団の暮らしを存続するために感染症対策(手洗い・消毒・施設全体の消毒・食事は個食にするなど)に留意しながら、通常の暮らしを送ることができるように事業をおこなってきました。

ガイドヘルパーでの外出も昨年の反省を糧に、感染症対策をしながら「楽しみ」のある生活ができるように保障しています。

日中事業所でのコロナの陽性者が出たときなどに、日中もホームで過ごすこともありました。

ガイドヘルパーの自粛や日中事業所の閉所などで、急な勤務交代も頻回にあり、グループホーム職員のコロナ禍での負担は、昨年に引き続き大きくなっているのが実態としてありました。

コロナ対応のために、ガイドに行けなくなったり、日中事業所を休むことになったり、逐一状況を家族にも報告することで、ホーム利用の自粛をする人がいるなど、体制もその都度大きく変わりました。その煩雑さを「しんどい」だけで終わらせるのはなく、感染拡大を最小限にするための対応であることの理解を職員がしていくことが必要ですが、その日1日の体制をどうしていくかの対応に追われて1日が終わってしまうということが、あったということとは否めません。

慢性的な人手不足も、コロナ禍での大きな影響はあったと思いますが、職員一人一人は「もしかして濃厚接触者かもしれない、接触している」状態でありながらも、仲間の支援に臆すことなく、感染拡大防止に努めながら支援を続けていくことが、事業所としての大きな財産

6月には(仮称)アネックスとして、定員5名の共同住宅が2か所開始します。どのような暮らしにしていけるか、単なる「箱(建物)」を作るのではなく、新しい「暮らし」をつくっていくことができるように、職員間でたくさん話し合いをおこなっていきたいと思います。4月に緊急事態宣言が出され、学校が休みになり日本中(世界中)が異様な空気が流れる中でも「暮らし」を支援することを止めることはできません。

感染症対策(手洗い・消毒・施設全体の消毒・食事は個食にするなど)に留意しながら「安心した生活」となるように事業を続けてきました。また、利用控えをする人も入居者23人中、3人のみで、1人は1か月近い期間でしたがあとの2人は短期間でした。

暮らしを守る職員としての意識をもてるように、会議などでは虐待について、人権についての情報共有をおこなっています。

一人一人の生活歴や個性を尊重し、人生のあらゆる局面に寄り添うという「多様性」と「個性」が求められるため、学習の機会をつくっていくようにもしてきました。

会議等では文献などを読み合わせして、障害のある人の支援の基本的な考え方を共有しました。また仲間のモニタリングをおこない、様々な仲間の顔・様子を職員間で共有することを大事にしてきました。

ただアルバイト職員が多いこともあって、一緒に実践をつくっていく、ということや、法人理念が伝わりにくい部分があり、来年度は特に多く勤務に入っている職員に、面談などを通して理念を伝える場、関わり方、法人としてのあるべき実践を伝えていくことに、2022年度は設定し、力を入れていこうと思っています。

障害者権利条約の再読み合わせは、昨年度からおこなっていましたが、シフトの調整などの関係で会議がもてる時間が減ったこともあり、途中になっています。

障害のある人たちの「暮らしとは?」「あるべき姿とは?」その議論をしていく上で「実践の柱」となるように、読み合わせを2022年度はおこなっていけるように、多忙なときこそ「学習」が大事であることから、計画していきたいと思います。

2021年度事業報告案

2022年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
ほまれの里	短期入所	5	45	R2/10/1-R8/9/30

職員配置数

事業内容	配置基準	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
短期入所	5:01								

登録者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男	5	11	8	2	1			27
女	2	2	8	3	1			16

登録者数(支援区分)

事業内容	1	2	3	4	5	6	計	平均
短期入所	1	5	11	7	5	12	45	4.2

※児童区分は1～3まで

事業所の特徴

利用率 当月延べ利用者数/(当該月日数)*定員 (%)

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ほまれの里	69	76	81	94	69	74	67	75	78	73	48	

【事業所運営に関わって】

10月ごろより全国的にコロナウイルスの感染者数が減少しましたが1月ごろよりオミクロン株が爆発的に流行し、利用者や職員の周囲でも感染者が増えてきている現状があります。特にショートステイはふたかみ福祉会の作業所をはじめその他の事業所の利用者や支援学校に通う児童などが利用するため、どこから感染が拡がるかわからないという緊張感を持ちながら事業を継続しています。

2月に関連事業所で陽性者が出た際には、接触疑いがある利用者だけでなく、不特定が利用する場ということで利用を控えるケースが数件ありましたが、事業を閉鎖せず利用状況と職員体制を調整しています。

利用希望の問い合わせについては相談支援事業所を通して数件ありました。利用する本人だけでなく家族についてもサポートを要する家庭も少なくなく継続的に連絡を取り合いながら情報共有しながら受け入れをおこなっています。

【利用者支援に関して】

①安心と自分らしい生活を保障します。

- ・感染症対策として1年を通して個室での食事は継続しています。利用者も職員も個別対応になれてきており、当面は継続することになりますが今後どのタイミングで従来の形に戻すのか検討が必要です。
- ・リビングは一定の感染症対策をしながら開放してきましたが感染者が増えてきている状況を鑑みてあらためて一定の距離を取ること、マスクの着用や手洗い消毒の随時確認と声かけを強化しています。
- ・利用者同士でゆっくり過ごしにくくなりましたが、周りに干渉されずにゆっくりできる個室があるという環境はショートステイで過ごすうえでの安心につながっています。

②利用しやすい事業所を目指します。

- ・曜日によっては利用希望が重複することはよくありますが、家族の通院や手術などの緊急時の高い要件を事前に確認し優先的にとるよう調整しました。
- ・土、日、祝の休日の利用が利用希望の調整がしにくくマンツーマン対応になることがあります。大西記念センター全体の人員の課題と運営上の課題もあり今後調整しやすい方法を模索していきます。下半期は休日の連続利用の受け止めを行い、グループホームの職員と連携して対応しました。
- ・緊急ショートを受け入れを行いました。受給者証を持っていない利用者でしたが支援センターはると連携して対応しました。

③利用者が気持ちよく過ごせる環境を作ります。

「だれがどこを掃除したか」を確認し共有できるよう営繕実施表を作成しました。「エアコンフィルターチェック」などいろんな項目を作って定期的に確認し実施するよう努めています。ホームも含めると範囲や項目が多いので設定した期間に網羅することは難しいですが現状なにができていないか把握することに活用できています。

④利用者の安全を守ります。

- ・来所時、翌朝の検温は徹底して行っています。ほまれの里で体調不良になる利用者はいませんでした。
- ・服薬チェック表を活用し薬を引き継ぐ職員、服薬支援をする職員と一緒に共有をするよう継続して取り組んでいます。下半期は服薬ミスがありませんでした。
- ・大西記念センター敷地内での車両事故が上半期3件ありました。下半期はありません。事前に勤務者の車両を整理し送迎車両が入りやすいよう努めています。
- ・利用者による壁や蛍光灯の破損がありました。幸いケガにつながりませんでしたが突発的な行動をする可能性があるということをおたためて共有していきます。

⑤人材の確保、育成を行います。

- ・ほまれの里単独でのKP会議は日程調整が難しくできませんでした。(GH兼務者はGHのKP会議に参加しています。)下半期は1回会議を行っています。
- ・定期的に会議はできていませんが毎日の引継ぎは重点的に行っています。互いに利用者の状態を共有できるよう引き継ぎの仕方は今後も丁寧におこなっていきます。

2021(令和3)年度事業報告(案)

支援センターはる

2022/3/31

現在

1 相談支援事業

名称	住所
支援センターはる	羽曳野市誉田七丁目808番地1
指定事業名	事業有効期間
委託(羽曳野市)	2020(r2)/4/1-2021(r3)/3/31
指定特定相談支援	2018(h30)/4/1-2023(r5)/3/31
地域移行支援	2019(h31)/1/1-2024(r6)/12/31
地域定着支援	2019(h31)/1/1-2024(r6)/12/31

-1 職員配置

管理者(兼相談支援専門員)	1	羽曳野市相談支援事業委託
相談支援専門員	4	
ケアマネジメント推進員(障害分野)	1	市相談支援機能強化推進事業
聴覚ピアカウンセラー・手話通訳者	1	手話通訳者1名(毎月曜日1.3木曜日)
肢体・視覚ピアカウンセラー	0	随時、電話予約対応

羽曳野市地域自立支援推進会議事務局

-2 主たる業務

(1) 羽曳野市委託相談支援

1) 個別相談

令和3年度 相談者数 (998)名(延べ) ※重複障害はそれぞれにカウント

市町村	障害	実人数	身体障害					重症心身障害	知的	精神	発達	高次脳	難病その他
			肢体	聴覚	視覚	内部	その他						
羽曳野市	一般	289	17	27	13	2	3	3	162	67	12	2	10
	計画	693	87	21	56	0	16	39	559	167	14	2	17
その他市町村		16	0	10	0	0	0	0	6	0	0	0	0
合計		998	104	58	69	2	19	42	727	234	26	4	27

(実施方法)

支援方法	件数	
	一般相談に係る件数	サービス利用者契約者に係る件数
訪問	54	315
来所相談	20	37
同行	15	75
電話相談	475	2108
電子メール/FAX	31	104
個別支援会議	16	26
関係機関からの紹介	0	0
その他	18	11
合計	629	2676

支援内容	件数	(再掲)	
		ピアカウンセラー支援件数	サービス利用者契約者に係るピアカウンセラー支援件数
福祉サービスの利用等に関する支援	407	4	1737
障害や病状の理解に関する支援	6	0	57
健康・医療に関する支援	86	0	496
不安の解消・情緒安定に関する支援	35	0	179
保育・教育に関する支援	2	0	15
家族関係・人間関係に関する支援	102	0	215
家計・経済に関する支援	30	0	169
生活支援に関する支援	126	0	380
就労に関する支援	17	0	63
社会参加・余暇活動に関する支援	16	15	22
権利擁護に関する支援	9	0	23
その他	24	12	43
合計	860	31	3399

※電話相談・電子メールは、問題状況が軽減されたり
の方向に向かった場合に計上する。日程の連絡など
ものは含まない。

2)ピアカウンセリング

○聴覚障害相談(視覚・肢体ピアカウンセリングは予約相談)

○ピアサロン ストレッチ体操&交流会(6月21日)

「散歩に出かけよう」(11月29日)

○視覚・肢体障害ピアカウンセリングは予約相談。

3) ネットワークの形成

羽曳野市地域自立支援推進会議

○全体会(9/17 3/4) 運営会議(4/9 6/18 7/16 10/1 1/14 2/4)

9/17障害福祉計画及び障害児福祉計画の行政説明

3/4事例検討ケースに見える 地域連携と課題

○部会・懇談会

事業所連絡会運営会議(5/14 9/24 11/19 1/21)

「相談支援部会」 (10/6)

「放課後等ディサービス懇談会」

「共同生活援助事業所懇談会」8/6

「日中・就労支援部会」 6月10日

重症心身障害者事業所懇談会 事務局会議 7/8

「事業所連絡会」全体会 新型コロナウイルス感染防止のため見送り

その他のネットワーク

南河内支援センター連絡会

ZOOM開催(4/19、6/7、8/2、2/14) 対面形式(10/11、12/20)

羽曳野市地域福祉専門職ネットワーク研修会ZOOM開催(9/29)

生活困窮自立支援N.W(12/23) 羽曳野市虐待防止N.W(12/20)

南河内ブロック進路指導関係機関連絡会(12/24)

4) ケース会議の開催

5) 広報活動・情報収集活動

6) 認定調査86件 (昨年度 59 件)

(2) 指定特定相談支援事業(羽曳野市)

・サービス等利用計画作成

131名 実人数

(3) 指定一般相談支援事業(大阪府指定)

・地域移行支援

0名 実人数

・地域定着支援

2 南河内北障害者就業・生活事業（羽曳野市・松原市・藤井寺市）
2008年度より国の事業に

名称	住所
南河内北障害者就業・生活支援センター	羽曳野市白鳥3丁目16番3号

職員配置

管理者	1	雇用安定等事業
主任就業支援担当者	1	
就業支援担当者	2	
生活支援担当職員	1	生活支援等事業・体制強化事業
生活支援担当職員	1	府生活支援等事業

1. 就業・生活支援活動の実績

(1) 就業相談

4月～3月 登録者数 550名

①（現状および障害別内訳）

就業状況	障害			その他		合計
	身体	知的	精神	発達	高次脳	
在職中	15	211	80	3	1	310
求職中	23	65	98	6	0	192
その他（訓練等必要な人）	4	38	29	1	0	72
合計	42	314	207	10	1	574

※障害のその他とは、障害者手帳を所持していない方

②障害者に対する相談・支援件数

身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
94	1035	836	19	1984

※相談・支援内容は、面接・電話・家庭訪問・ケア会議・職場実習支援・就労定着支援・生活支援等

○ 羽曳野市障害者雇用相談 羽曳野市の委託事業 相談件数:17件

(2) 職業準備訓練から就職・職場定着にいたるまでの支援

①訓練のあっせん

- 基礎訓練12名（併設施設および提携施設）
- 職場実習15名（知的11名、精神 4名、その他0名）

②職業評価

1名（大阪障害者職業センター南大阪支所に実施依頼）

③就職支援

ジョブコーチ支援1名
トライアル雇用（3か月の試用雇用）を6件実施。
就職者数39名（身体1名、知的25名、精神13名、その他0名）

(3) 就職者に対する支援

- ①定着支援 定着支援件数 189件
企業訪問のうち、職場訪問により定着支援を行った件数
- ②余暇支援活動（はるくらぶ）

- (4) 事業所への支援
事業所支援 834件 事業所 143事業所
2. ネットワークの形成
- 定例参加会議（主なもの）
 - 大阪障害者就業・生活支援センター連絡会 ブロック会議
 - 羽曳野市地域自立推進会議
 - 松原市地域自立支援協議会
 - 藤井寺市障害者地域自立支援協議会
 - 南河内支援学校進路指導会議
 - 第18回 南河内北 障害者就業・生活支援センター運営会議の開催
新型コロナウイルス感染防止のため書面にて実施
 - 障害者の就労を支援する機関との連絡会（ジョブネットトライアングル）
 - 参加事業所内で運営チームを形成
 - リモートでの会議も実施
3. 生活面での支援について
- ケース会議の開催
 - 人数制限を設けながら少しずつ実施。
 - 当事者交流会 今年度においては参加できていません。
4. 障害者雇用に関わる啓発活動
- 障害者雇用フォーラムの開催 9/6「障害者雇用における仕事のつくりかた」松原市
5. その他
- 障がい者就労支援フェスタへの協力 新型コロナウイルス感染防止のため中止
 - 医療ニーズのある精神障がい者の就労支援連携事業への協力
新型コロナウイルス感染防止のため中止

社会福祉法人ふたかみ福祉会第3者委員会活動報告

	21(r3)年度第1四半期
日時	2021/7/16 16:30
場所	支援センターはる
出席者	袴田委員 佐野委員 八木、石本
	<p>○はびきの園 送迎車 10分早く着き、迎えの人を待たず、車から降ろす。 運転手等に基本的なマニュアル必要 ・歯でかまれたようなあざがある。いつどこで発生したか把握ができていないことと、歯形のような痕は家族からの報告となった 。・苦情への対応をしっかりと。同じことを繰り返さないように。</p> <p>○ハピバール ・報告数が少ない。現場から上がる習慣、職場風土を作ってほしい。</p> <p>○耕房 ・服薬ミス 自分だけがわかる場所に置いていた。誰もわかるルール化を ・違う薬の点眼 ・ミスが増えてきている。再発に防止に向けて ・異食:排便に布や糸がみられる。異食が無いように環境と安全、代替品などに配慮を。</p> <p>○ほまれっこ 衣類の格好を注意</p>

3

	21(r3)年度第3四半期
日時	2022/1/21 16:30
場所	支援センターはる
出席者	袴田委員 佐野委員 八木、石本 関口ユ、
	○はびきの園